

Chapter.

1

お片づけは
「生きる力」



お片づけが育む 子どもの「8つの力」

わが子を授かったときは、無事に産まれてきてくれただけで心から感謝したはずの私たち。につこり笑ってくれたり、首が座ったり、寝返りを打てるようになったり、ハイハイ、たっち、はじめての離乳食やおしゃべり……。一つ一つの成長に家族で両手をあげて喜び、驚き、感動した日々だったのではないのでしょうか。

とはいえ子育ては嬉しいことばかりではありません。慣れない育児に疲れきっていてもなかなかまとまった睡眠時間がとれなかったり、育児本やよその子とくらべて「あの子はもうつかまり立ちを始めたのに」、「うちの子はなかなかおむつがとれない……」などと心配したり。

そして幼稚園や保育園、小学校に上がるころになると、気づけばわが子にクリアして欲しいハードルはさらに高くなっていきます。挨拶がきちんとできるようになって欲しい、思いやりの心を持って欲しい、身のまわりのことを自分でできるようにになって欲しい、勉強もできないと大人になって困るんじゃないか……。まわりとくらべながら一喜一憂したり、「あれもこれも！」とついつい欲張りになったりするのが親の心理ですね。

では子育ての究極のゴールは何でしょう？ いい大学に入ることや一流企業に就職することでしょうか？

私は「わが子が大好きな人たちと豊かな人間関係を築き、楽しみながら自分の人生を切り開いていけるように育てること」なのではないかと思います。そのために必要だと思うからこそ、挨拶ができるか、思いやりを持っているか、学力も身につけさせなくちゃ！ などと思うんですね。

つまり子育てのゴールとは、いつか自分がわが子より先にこの世を去るであろうときに、「大丈夫。この子は私がいなくてもちゃんと幸せに生きていける!」と思える、そんな自立した大人に育てることだと思っています。

これは真剣に考えれば考えるほど気の遠くなるようなゴールで、「自分には果たして親としてそれだけの器があるのだろうか」と、思わずわが身を振り返ってしまいます(笑)。

ですが、お片づけの仕事に携わっている私が一つだけ自信を持って言えることがあります。それは「**お片づけには、幸せに生きていくために必要な要素がたくさんつまっている**」ということです。私たちは子どもにお片づけを教えながら、幸せに生きる力を育ててあげることができるのです。

お片づけが育む「はぐく幸せに生きる力」とは、具体的には次の8つです。

- 物を大切にする力
- 大切な物を選ぶ力
- 自分で決める力
- ものごとを工夫する力
- 行動に移す力
- 人を思いやり、自分のことを自分でする力
- 自分を信じる力
- 限られた環境の中でベストを尽くす力

どれも子どもたちが生きていくうえでとても大切な要素です。でも、親である私たちが、わが子にこうした力をつけさせたいと思っても、正直、何をしていいのかわかりませんよね(笑)。

お片づけは、これらの力をぐんぐん伸ばします。



物を大切にする力

お片づけが育む子どもの「生きる力」①

「物を大切にしない」とは、ママが子どもによく言うセリフですね。でも口ではそう言いながらも、私たち自身が、無意識のうちにまったく逆の行動をとっていることがあります。

たとえば子どもが何かを欲しがったとき、すぐに買ってあげたりしていませんか？ 何かをなくしてしまったとき、「もうっ、仕方ないわねえ〜！」と叱りながらも同じ物を買ってあげたりしていませんか？

小学校の忘れ物箱にはたくさんの「いい物」が引き取られることなく放置されていたり、ときには名前入りの物まで残っていたりします。

この本を手にとられた方の中には「子ども部屋の片づけ術」といったテクニカルな内容だけを期待されている方もいるかもしれませんが、もちろん、本書の後半ではそうしたテクニックをたくさんお伝えします。

しかし、この章では、そうしたお片づけテクニック以前の、「片づけ」の効果をお伝えしたいのです。これを知っているのと知らないのでは、お片づけに対する向き合い方はもちろん、子どもに対する向き合い方が大きく違ってくるはずです。

お片づけは単に面倒な作業ではなく、子どもが幸せに生きるための力を育てるチャンスだと思えるようになるでしょう。

それでは、8つの力を一つずつ解説していきましょう。

「欲しいと言ったら簡単に手に入った」、「なくしてもまたすぐ買ってもらえる」という経験は、物を大切にするとどこか、物に愛着を持つという経験すら奪いかねません。

自分の子どものころを振り返ってみても、欲しくて欲しくて仕方がなかった物をようやく手に入れたとき、かけがえのない宝物になったのではないのでしょうか。何かを「本当に欲しい」と思うためには、私はある程度の「恋焦がれる時間」が必要なのではないかと思っています。

物があふれかえっている時代ですから、ちよつと素敵な物や目新しい物はそこから中で目にとまります。ですが「わあ、素敵！」と思う物たちの中には、数日経つと忘れてしまう物もあれば、何日経つても「やっぱり欲しい！」と思う物もあります。大人でも子どもでも「本当に欲しい物」を見極めるためには、ある程度の時間が必要だと思うのです。

子どもの「物を大切にする心」を育てたいのならば、ぜひ普段の物の与え方を振り返ってみましょう。わが子が何も言わないうちから次々とおもちゃを買い与えたり、一度欲しいと言っただけで簡単に与えたりすることが、望む結果につながっていますか？

お片づけサービスで伺ったお宅で、お子さんと一緒におもちゃの整理をしていると、ママが「これはいい」と思って買ってあげた物たちが「いらなーい!」、子ども自身が選んだ、ママが眉をひそめるようなガラクタが「いるー!」になってしまいい、ママがあわてることがあります(笑)。

子どもの可能性を広げてあげたい、本物、よい物、よい環境を与えてあげたいという親心もわかりますが、ときには買ってあげた後の様子も観察してみましょう。子どもが興味を示したり遊んだりしていないようであれば、一度与えるのをやめてみることも必要かもしれません。

「ママが持ってくるものはヘンなものばかり」なんて不名誉なイメージを持たれてしまう前がいいですね(笑)。

逆に、子どもがいつも遊んでいる物や大好きな遊びが何かも、日ごろから観察してみましよう。「三つ子の魂百まで」などと言いますが、小さなころの「好き」には、その子の本来の個性や得意がつまっていることが多いのです。

お子さんの「大好き！」や「得意！」を認めてあげながらのびのびと伸ばしてあげると、子どもは安心して自分で選び、選んだことに没頭できます。他のことに興味を持ったときにも自信を持ってチャレンジする心が育つのです。

子どもが何かをなくしたときも「物を大切にする」ことを伝えるチャンスです。まずは時間が許すかぎり一緒に探してみましよう。外でなくしたならば歩いてきた道と一緒にたどったり、近くの交番や落し物預かり所に問い合わせてみたり、それでも見つからなかったときは子どもと一緒に「どうすれば今後は落し物をし

なくて済むか」を一緒に考えてみたり。

わが家の息子が5歳のころ、「なくすから家に置いていきなさい」という私の言葉に従わずに仮面ライダーベルトを持って出かけたことがありました。買い物先の大型スーパーの中で上着と一緒に見事になくしてしまい、母子で必死に探したにもかかわらず、とうとう見つかりませんでした。

その後も相変わらず何かを持って出かけたがる息子ではありましたが、以前よりも少しは聞き分けがよくなったのは、とつてもがっかりした体験があったからだと思っています。

なくし物をその都度探しに行くことは手間がかかることですから、たいして高価なものでなければ「もう一度買った方がラク」と思うことも多いでしょう。ですが「物を大事にする」とはどういうことを、このような機会に感じさせてあげることもかけがえのないしつけになるのではないかと思います。



お片づけが育む子どもの「生きる力」②

大切な物を選ぶ力

私たちが「理想の人生」を考えると、「健康に暮らせること」や「経済的な不安がないこと」以外にも、色々と望むことがあります。自分の欲しい物を手に入れたり、気の合う人と親しい関係が築けたり、やりがいのある仕事に恵まれたり、大好きな趣味を楽しんだり。すなわち、「毎日を無事に生きる」だけでなく、「幸せに生きたい」という欲求があります。

では幸せに生きるために、あなたには何が必要ですか？ お金？ マイホーム？ 高級なブランド品？ やりがいのある仕事や打ち込める趣味？ 配偶者や子ども？ 心を許せる友人？

自分がすでに持っている物もあるでしょうし、持っていない物もあるでしょう。

でもまわりを見渡してみると、持っている「恵まれた人」が必ずしも幸せそうでなかったり、持っていない「大変そうな人」が案外幸せそうにしていたりします。

幸せって何だろう？ この問いは大人になった私たちにとってもどうやら永遠のテーマのようです。幸せに関する書籍は、小説、エッセーやスピリチュアルな本にとどまらず、今やビジネス本や専門書のコーナーでも見かけるようになってきましたが、いまだにこれ！ という結論は出ていません。その理由は、「何に幸せを感じるかは人によって異なる」という事実にあるのではないのでしょうか。つまり、**幸せに生きるためには、まわりの価値観や物さしに惑わされることなく「自分が何を大切に思い、どのような状態に幸せを感じるかを知ることが大切なのです。」**

お片づけはまさにそのことと向き合うプロセス。「自分にとって大切な物・ことはなんだろう？ 誰とどんな時間を過ごしたいと思っているんだろう？」

これは大人でもとても難しいことです。お片づけサービスのお客様も、慣れないうちは「高かった」、「まだ使える」、「いつか使うかも」、「友人からの頂き物だ



自分で決める力

お片づけが育む子どもの「生きる力」③

子どもが自分で好きな物を選ぶうとするときに、その決断を邪魔してしまうのは、私たち親の方です。「もったいないからとっておきなさい」「それはこの前買ったばかりじゃない!」「お義母さんかあからのプレゼントなのにいらなんて悪いでしょ?」など、子どもの潔すぎる判断に戸惑ってしまい、つい親の価値観を押しつけてしまいます。

せっかく子どもなりに考えて決めようとしているのに、**その度に親に「こうしなさい」と訂正されてしまうと、子どもは次第に自分の判断に自信をなくしてしまったり、自分で考えることを面倒臭がるようになるでしょう。**

その繰り返しで育てられてきた子どもがある日突然、「もう大人なんだから自

から」などと「自分にとって大切かどうか」とは別の基準で物を残そうとしたり、「どんなふうに暮らしたいか」ということに關しても「もっとスッキリ暮らしたい」というあいまいな表現が精一杯で、具体的な暮らしのイメージが浮かばないことが多いのです。

「自分にとって大切な物を選びとる力」は、幸せに生きるためには不可欠です。そして、それが本来得意なのは、実は大人よりも子どもの方です。子どもは親がお金を払ったおもちゃに対して「高かったから」なんて考えませんし、誰にももらったかなどのしがらみも気にせず「これはもういらない。これは大好き!」と言えるのです。あまりの潔いさぎよさに大人の方がたじたじになることもあります。自分に正直でピュアな感性を持つ子どもならではのことに。

「もったいないでしょ?」「これは高かったおもちゃなのにもういらないの?」など、必要以上に口出しをしてわが子の感性を否定せず、まずはお子さん自身にじっくり考えさせてあげてくださいね。

分のことは自分で決めなさい」と言われたら、果たしてその子は自信を持って一人で決められるでしょうか？

子どもの物を整理するときは、基本的には本人の意思を尊重してあげましょう。
自分で考えて決断する練習を、小さなころからさせてあげるのはです。

ときには「本当に大丈夫？」と、心配になるかもしれませんが。でも失敗することをもって大切なのです。

お片づけサービスで何うお宅には、物の量が割と少なく部屋もスッキリしているのに、たくさん物の物が床置きになっている場合があります。明らかに置き家具を追加すべき場所に追加していないことで散らかっているというパターンです。そのようなお宅のお客様は「どんな家具を買えばいいかわからない。失敗したくないから買えない」とおっしゃいます。

様々な情報を得て失敗をなるべく少なくすることは大切ですが、失敗しなければ

ば得られない学びもあります。「自分にとって大切な物を見極める」ことがまさにそうです。これは他人や外部の情報の中に答えがあることではありませんから、自分でじっくり悩み、迷い、勇気を出して決断し、その結果成功したり失敗したりしながら「自分の価値観」をより明確にしていくしかないのです。

大人でも難しいことだからこそ、お子さんには小さなころからそのような経験を積ませてあげてください。

もちろん、必要に応じてお子さんが上手に判断するためのアドバイスや基準の提案は大切です。いい決断ができたときは一緒に喜び、失敗したときは叱ったりダメだしたりするのではなく「じゃあこれからはどうすればいいと思う？」と、親子で次への学びを手に入れましょう。

それでも子どもの決断に「うーん、どうかなあ……？」と不安になったときは、子どもがいらないと言った物を見えない場所ですばらく保管して様子を見るのもいいと思います。後で言われたときには、「この前いらないうって言ってたから処



分しようと思ってたんだけど、そういえばママがうつかりしていてまだ処分してなかったわ。はい、どうぞ」と言ってお出してあげればいいのです(笑)。

大切なのは、わが子に「決断する経験」を積ませること。子どものころの決断は絵本やおもちゃをどうするかといった程度ですが、大人になったら進学先や将来の職業、人生を共にする相手などを決めなければなりません。自分で決めるとは、人生の舵取りを自分でするということです。自分でしなければ、いつの間にかまわりに決められてしまいます。自分の望まない不本意な人生になってしまっから、あれこれと不平を言っても遅いのです。

どうかお子さんが自信を持って人生の大切な選択を決断できる大人になれるよう、小さなころからお片づけを通して見守ってあげてください。

お片づけが育む子どもの「生きる力」④

ものごとを工夫する力

わが子が「大切な物」を選んで要不要を自分で決めたら、残った物はすべて「どこかに収納する物」ということになりますね。子どもが自分で管理できるようにするためには、ただ単にどこかに突っ込むだけではうまくいきません。子どもにもわかりやすく物を分類したり、出し入れしやすくなるよう収納場所や収納方法を決めたりする必要があるのです。

分類するという作業は、簡単なコミュニケーションがとれるようになる1歳過ぎあたりから始められます。お母さんが「ここにナイナイしようね」と伝えれば、子どもは持っている物をそこにポイッと放り込んでくれます。もう少し大きくなってくると「これはボール、これはミニカー」など、自分でも簡単なアイテム別

の分類ができるようになります。小学校に入って管理する物が少しずつ増えてくると、分類の仕方により複雑になってきます。たとえばノートならば、科目別や学校用・塾用など、同じアイテムをさらに細かく分類することがあります。

子どもの知育玩具や知育教材などでも、「どれが同じ仲間かな？」といったことを考えさせる物がありますね。様々な物を見たときにそれぞれの特徴を見つけ出す。分類方法は一つとは限りませんので、お互いの共通点や違いなどを考えながら分類のための様々な切り口を考えるのは、かなり高度な思考なのです。

お片づけの場合、どう分類するかはその後の「収納場所」と密接につながることが多いです。アイテム別分類は一番単純な分類ですが、「より使いやすくするためにはどうすればいいか」と考えたときには、さらに細かく分類することもありますね。

たとえば、お箸ならすべてカトラリースペースが便利かというと、お弁当用のお箸はお弁当箱と同じ場所に収納した方がお弁当づくりがスムーズですし、割り

箸はピクニック用の大きなタッパーの近くに収納したり、お客様が来るときの「パーティー用セット」として収納したり、掃除用具と一緒にセットしておきたいご家庭もあるでしょう。「どう仕分ければ使いやすくなるか」は、ときにはクイズを解くのに似た楽しいプロセスでもあります。

そして、物を分類した後は、どこにどんなふう収納するか、つまり収納場所や収納方法を決めるプロセスがあります。基本的なコツは後の章でお伝えしますので、最初は大人が教えてあげるとよいでしょう。ですが基本のコツを理解した後子どもたち自身が工夫をしなければならないのは、「**自分の場合はどうか？**」ということです。コツを自分の使い方に応じて応用できなければ、やはり「あれ？」ということになってしまいます。

唯一無二の正解があるわけではない問題を前に、自分に当てはめて」どうしたらもっと使いやすくなるか」を柔軟に工夫する力を伸ばせるのがお片づけなのです。



お片づけが育む子どもの「生きる力」⑤

行動に移す力

お片づけのセミナーで基本をお伝えすると、受講生の方々は色々と思いつたことがあるらしく、「『帰ったらあそこをこうしよう!』と思うところがたくさん見分かりました。はやく片づけたくまりました!」とそわそわし始めます。当日や数日後に「〽を〽してみたらすごくキッチンが使いやすくなりました!」「山のように捨てる物が出てきました!」「家族が手伝ってくれるようになりました!」「した!」「あれほど嫌いだっただお片づけがなんだか楽しくなってきました(笑)」などのご報告メールをいただくことはしょっちゅうです。みなさん、実際に行動されたからこそ「ご褒美体験」を手に入れた方々です。

ですがごくたまに「わかつちやいるけどねえ……」という方や、ときには「今日

先生がおっしゃったことは全部知っていることばかりでした!」と胸をはる方もいらつしやいます(笑)。

残念ながらお片づけは、どんなに正しいやり方を「知っていても」、いい方法をともし変わリません(笑)。「知っていること」と「行動すること」の違いはとて大きいのです。

大人になると行動力はとても大切になります。家電がどれだけ便利になったとしても、私たちがそれを使って日々の家事を上手にこなさければ、快適な暮らしを送ることはできませんし、仕事ではどんなに華やかに見える大きなプロジェクトも、実際には本当に小さくて地味な作業の積み重ねです。

「口ばかり達者で行動しない大人」ではなく、「いいと思ったことを素直に実践し、自ら行動するフットワークの軽さで周囲をも上手にまきこめる大人」に育てるためにも、日々のお片づけで「行動すること」を習慣づけてあげたいものです。



お片づけが育む子どもの「生きる力」⑥

人を思いやり、

自分のことを自分でする力

「人には優しくしなさい」、「自分のことは自分でしなさい」など、私たちはわが子に思いやりの心や責任感を期待しますね。これらの要素も、日々のお片づけで育てていける力です。

「部屋が散らかっていても困らない」と思うのは、家事をしていない人の勘違い。少しでも心地よいわが家にするために日々部屋を整え、ホコリをとり、掃除機をかけたりモップをかけたりしている主婦にとっては、部屋が片づいているかどうかで家事の負担や所要時間が大きく変わってくるのです。家族三人が一つずつ散らかせば、主婦の片づけ仕事は三つ増えるのですから、お母さんの気持ちとし

ては単に家事が大変という以上に「家族が協力してくれない……」という孤独感が何よりも辛いですね。

お子さんには「あなたがお片づけをしないことで、お母さんがとても困ったり傷ついたりしている」ということを、感情的ではなく落ち着いて伝えてあげてください。

普段お母さんに甘えてしまっているお子さんも、幼稚園・保育園や学校などでは自分なりに片づけているはずです。家でもお互いを気づかうのはごく当たり前のこと。

私がお片づけに何うお宅でもときどき、「ママが一番家にいる時間が長いんだから、ママがやってよ」と、勘違いしているお子さんがいらっしやいます。そんなとき、お母さんは「そうだよ、家のことは私の仕事だよ」なんて思わないでください。そのような勘違いをしているお子さんが女の子なら、やがて大人になったときに同じことを言われて傷つくようになるかもしれません。男の子なら、今

どきの元気な女の子たちには結婚相手として見てもらえなくなるでしょう(笑)。

家族というのは社会の最小単位です。公共の場でお互いへの思いやりを持つのと同じように、家族に対してもお互いを気づかう優しさや、自分の後始末は自分でする責任感を、お母さんたちはぜひ自信を持って伝えていただきたいと思ひます。

ただし、ときにはあえて「やってあげる、手伝ってあげる」ということも大切。お子さんが本当に困っていたり疲れていたるときまで「自分のことは自分で！」を徹底しすぎると、逆に「自分のことさえやればいいんでしょ？」と、お互いの状態に無関心になってしまう危険性もあります。

いつもお互いをそれとなく気づかいながら、自分でやってもらったり、ときには手伝ってあげたり。そんな日常の中からこそ、「自分でやる責任感」と「周囲への思いやり」の心が育つのだと思います。



お片づけが育む子どもの「生きる力」⑦

自分を信じる力

「○○ができた！」という体験は、それがどのような分野であっても子どもの中に自信を芽生えさせます。自分でも達成感や自信を感じることができますし、親もそれをみて「できたね！頑張ったね！」とほめてあげるきっかけになりますね。

何かができたという成功体験があると、他のことに関しても「自分なら頑張ればきっとできる！」という、自分への信頼につながります。子どもには何であれ「できた！」という体験を積み重ねてあげたいものです。

そういう意味でも、お片づけはとても手軽にそのような体験をさせてあげられるツールです。

片づけやすい仕組みをつくってあげること、子どもが通園や通学の身支度を



お片づけが育む子どもの「生きる力」⑧

限られた環境の中で ベストを尽くす力

おうちには、間取りや部屋の広さ、造作収納の形などの「ハード面」と、家具の配置や物の定位置、収納方法などの「ソフト面」があります。

お片づけはソフトのスキル。つまり、間取りなど変えられないハード面の環境を受け入れたうえで、収納する場所や収納方法などのソフトの工夫をこらして最大限の便利さや心地よさをつくり上げるプロセスです。

わが家は現在、70㎡の古い2LDKマンションに家族4人で住んでいます。ものすごく広いというほどではありませんし、中学生の娘と小学生の息子は年齢も

一人で行けるようになったり、忘れ物をしなくなったりします。

「○○ちゃん(くん)はいつも忘れ物をして先生に怒られてるよね」なんて不名誉なイメージは、片づけやすい仕組みをつくってあげるだけで改善できることなのです。

ママも今までやってあげるのが大変だった分、心から喜んでほめてあげられまし、お友達やそのママが遊びに来たときには「キレイなお部屋ねえ〜」などと感心してもらえます。わが家の娘も小さいころはそんなまわりの反応を見てとても嬉しそうにしていました。

お片づけのいいところは、ほかの分野で自信を持たせることよりもずっと手軽に自信を持たせることができる点。勉強やスイミングなどで、まわりの子に「すごい!」と言われるレベルを目指すことの大変さにくらべると、ずっと簡単(笑)。だからこそ、このような手軽で便利なツールを、ぜひわが子の自信を育むために使っていただきたいと思います。

性別も異なりますが、いまだに同じ四畳半の子ども部屋で過ごしています。

そんなわが家の自宅セミナーにいらした受講生たちが実感してくれるのが、「やれることはたくさんあるんだ！」ということ。

わが家とご自宅の広さや家族構成、物の量をくらべたり、決して片づけ優等生ばかりではないわが家の家族の話を聞いているうちに、「うちの方が広いんだからもっとスッキリできるはず!」、「もっと主人を大事にしてあげなくちゃと思いました」!、「まだまだ減らせる物があると実感しました」などと気づいてくださいます。

「家が狭い」、「間取りが不便」、「時間がない」、「家族が片づけてくれない」など、片づけが進みづらい状況は確かに色々あるでしょう。ではそれらの状況を今すぐ大きく変えることはできますか? 引越す? リフォームする? 何かをやめてまとまった時間をつくる? それともいつそのこと家族を取り替えますか(笑)。

今の環境をすぐには大きく変えられないとき、毎日ブツブツ文句を言い続ければ私たちは今より幸せになれるでしょうか。多分、不平や不満だらけの自分に嫌気がさして、もっと落ち込んでしまうのではありませんか?

大人でも子どもでも、そのときの状況・環境には自分の力で変えられることもあれば変えられないこともあります。そんなときに、変えられないことに対して文句を言っている私たちの人生がよくなることはありません。変えられることと変えられないことを見分け、変えられることに集中して自分の人生を最大限よい方向に進めていくこと。

今よりもっとよくなる! まだ自分の力で変えられることがある! と思えることは「希望」そのものです。辛い状況にあるときにそう思えなくなったら、私たちはおそらく心が壊れてしまって、生きていくことができなくなるのではないのでしょうか。

なんだか大きすぎる話になってしまいました(笑)、「変えられないことをありのままに受け入れ、変えられることに集中する」というお片づけのプロセスは、「限られた環境の中でベストを尽くす」という、人生を幸せに生きるためのプロセスとまったく同じなのです。

*

いかがでしょうか。「お片づけには、生きる力がたくさんつまっている」という意味をわかっていただけましたか？

わが子にお片づけをしつけようと思ったときには、どうか「部屋をキレイにするために」と考えずに、「いま、私はわが子の『生きる力』を育てているんだ」と考えてみてください。「お部屋のキレイのために」頑張ろうとするだけでは、日々の

片づけバトルがしんどくなってくるにつれて「もういつか、子どもが小さいうちは部屋が散らかっても仕方がないよね……」なんてあきらめの気持ちが生まれてしまうかもしれません(笑)。

でも「私は今、この子の生きる力を育てているんだ!」と考えれば、無駄に思える日々の片づけバトルも「親として何よりも大切な仕事をしているんだ」と思えるのではないのでしょうか。

本人が「やったほうが得」と気づかなければ、大人でもなかなか行動を変えさせんから、すぐにうまくいかなかったとしても、長い目で見ながら少しずつ、できることから取り組んでみてくださいね。

